



8・15終戦記念日の街頭宣伝 (神奈川)



No.363

編集発行人 中西三洋
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連
会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

反戦平和の語り部となって、国賠署名と「憲法九条」をひろげよう

異常な猛暑が続いた今夏、「九条の会」賛同の広がり、原水爆禁止世界大会、8・15終戦記念行動、そして日本母親大会など、平和への熱いよびかけがくりひろげられました。オリープの栄冠を競うアテネのオリンピックも、平和の祭典として世界を大いに沸かせました。

しかし、イラクでは米占領軍によるナジャフ包囲と血なまぐさい大量殺りく攻撃が続けられています。

日本でも宜野湾市内の沖縄国際大学構内に米海兵隊の大型ヘリが墜落炎上し、市民を死の恐怖に陥れました。米軍は日本側の事故調査権を排除し一方的に撤去しました。小泉総理にいたっては、いつとき「夏休み中」と称して市長との面会も拒否するしまつです。県民の怒りは「地位協定改めろ」ともりあがっています。

参院選の結果、国会は改憲勢力が多数をしめたとはいえ、国民世論は、憲法九条変えるな、多国籍軍への参加反対は約七割をしめており、党派をこえて憲法九条を生かす平和な日本を求めているのです。

私たち同盟はこの9月、全国各地で地方ブロック会議を開き、今日の政治情勢をきりひろく同盟の果たすべき役割と、これまでの経験など交流を深めています。語り部を増やし、会員拡大と署名五〇万をめざしましょう。

主 な 記 事

- 第8回国連要請ツアー報告……………273
- 8・15終戦記念日行動……………4
- 顕彰碑探訪・時の焦点「小泉首相と靖国参拝」……………5
- 抵抗の群像「勝目テル」……………6
- 同盟短歌・俳句・書棚……………7
- 京都戦争展、日本母親大会……………8

第8回国連要請ツアー報告

団長 橋本幸夫

同盟の第8回国連要請団19名は8月3日成田空港を出発、14時間の空の旅ののち19時30分、ジュネーブに到着。

翌4日、遠くヨーロッパを望む緑の丘に建つ国連人権委員会を訪問。施設内を見学ののち、先行していた斎藤久枝同盟国際部長らが準備していたNGOブリーフィングに参加しました。

自己紹介は「反戦平和、憲法九条擁護のNGO」

【ブリーフィング】主催者側から新倉修氏（青山学院大教授）、斎藤久枝氏（同盟国際部長）、ゲストのウィコ・ラマン氏（対日道義請求財団）、鈴木亜英氏（国際人権活動日本委）、ボンラジャ・アントン氏（国際教育開発）の発言があり、議長はヴェレーナ・グラフ氏（人民の権利と解放のための国際同盟）でした。

斎藤国際部長は発言で、同盟の組織と活動について紹介し「毎夏ここに参加する目的は何よりも皆

さんの協力を得て、私たちの活動を連帯のなかで広げたいから」と国連要請の趣旨を説明しました。

主催者各氏の報告（英語）の後、橋本幸夫要請団長がシベリア抑留



者の労賃未払い問題、長野文子氏が憲法9条について、中村洋子氏（要請団事務局長）が「九条の会」について報告。風間秀子氏が母親運動、風間英一氏が選挙活動不当弾圧について発言しました。人権と平和を守る国際連帯を実感しました。

二時間のブリーフィングののち

夕刻から、ジュネーブ市内のサンピエール寺院、市庁舎、宗教改革記念碑、英国公園、花時計などを廻りました。

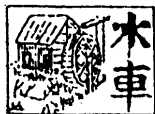
盛況だったジャパンデー 内外から92名が参加

翌5日はアルプスの麓の町シャモニーへ。展望台からアルプス最高峰のモンブランの雄姿を一望しました。一部はレマン湖を遊覧船で周遊しました。

6日夜は恒例の「ジャパンデー」です。ジョンノックスのホールを借り切り、飾り付け、おにぎり、天ぷらなど、ツアー参加の女性たちの手づくりで、外国NGOの参加者を歓迎しました。

屋外の青草の広場で6時からゆかた姿の参加者の盆踊り、炭坑節で盛り上がりました。出し物も南京玉すだれ、タミール舞踊、日本の歌、世界の歌の独唱・合唱と多彩でした。参加者は日本側38名、外国側54名で満員の盛況でした。

3日間の要請行動を終え、7日からはAコース（オランダ）、Bコース（ポーランド）、Cコースに別れてツアーを楽しみ、ウィーン空港で合流し帰国しました。



木車

八月六日秋葉広島市長の核兵器廃絶実現の先頭に立つ決意が、格調高く世界に伝えられた直後の爆心地の一隅。ある中学校の慰霊碑に花を手向け水で清めたあと、裏へ回ってその碑に刻こ

まれた犠牲者の名前を、目を閉じてなんどもなんども指でこすっている老婆の姿がありました▼その年の暮れまでに十五万人。五年後までの原爆症の死者を加える二十万人を超す犠牲者の慰霊碑がこの爆心地を中心に百力所以上もあります▼「どうして指で。お孫さんですか?」「いいえ息子です。あの日中学一年生。『行ってきます』と元気な声を残して玄関を出たまま還らないのです。この名前をなぞっていると、あの日のあの子の顔や姿や声がよくえってくるのです。」▼語る老婆も五九年前はうら若き母の時代。それぞれ何百人も列記された慰霊碑の刻印の中で、使いこまれた硯石のように、すり減って消えなかったものがいくつもありません。

(元)

国連人権委での発言

斎藤久枝国際部長は8月11日、国連人権促進保護小委員会において同盟を代表して、国連への要請について発言しました。発言の要点は次のとおりです。

私は当小委員会が、日本政府に謝罪と賠償を要求している治安維持法犠牲者の問題について特別な配慮をお願いするものです。

戦前の天皇制政府は、15年にわたる中国、アジア全域、太平洋地域への侵略戦争で暴虐の限りをつくしました。南京大虐殺、731部隊の生

体実験、毒ガス遺棄、性奴隷、強制連行・労働、軍収容所での人権侵害などの戦争犯罪と人道に反する罪によって、中国、朝鮮、フィリピン、インドネシア、オランダ等の多くの人々が犠牲になりました。このような侵略戦争を遂行するために天皇制政府は、1925年以来「治安維持法」という法的武器を使って、ドイツのゲシュタポのような特高や思想検事が抵抗者、批判者をすべて弾圧したのです。思想、信条、信仰、言論、結

社の自由はことごとく踏みじられました。

治安維持法による弾圧は、たとえば、後ろ手に手錠をかけて逆さに吊るす、椅子に縛り付けて殴る、ゴム管で鼻に水を注ぐ等です。女性に裸にされ性的拷問や凌辱を受けました。これらの拷問、暴行はイラク・アブグレイブでのアメリカ軍の虐待に優るとも劣りません。

これに対し戦後の日本政府は何らの措置も取っていません。日本国憲法の原則からすれば、侵略戦

憲法から平和条項を取り除こう としている今こそ、国連は勧告を

斎藤久枝

胸の傷は国家に謝ってもらわないと治りません。自衛隊のイラク派兵、日の丸・

争に抵抗した治安維持法犠牲者にこそ真っ先に謝罪と賠償をすべきだと考えます。侵略戦争に参加した軍人に恩給が支給され、侵略戦争に反対した犠牲者に謝罪と賠償を行わないのは、人権の国際的基準からみて平等な扱いと言えるでしょうか。

国際的にみれば、韓国の植民地時代の犠牲者、ドイツ、イタリア、フランスのレジスタンス活動家に顕彰の措置がとられています。アメリカ、カナダでも強制収容に謝

罪と賠償を行っています。

それにひきかえ日本政府は侵略戦争を認めず、多くのアジア地域NGOの要求にも聞く耳を持たず、一言の謝罪も賠償もありません。このことは権力犯罪を行った多くのものたちが今、憲法から平和の条項を取り除こうとしてしていることと大きく関連しています。

ここで私は92歳の松崎濱子さんの言葉を紹介します。「治安維持法犠牲者に謝罪と賠償を。この

君が代の強制、靖国参拝、憲法改悪の動き。私は18歳で特高に捕まったときを思い出します。『満州事変』の前夜にあまりにも似ていて恐ろしい。半世紀前、日本で起きた人権侵害と同じことがイラクやアフガニスタンでまたやられているでしょう。もうあの戦争と暗黒政治はゴメンです。」

私はこの小委員会で行くたびに訴えてきました。いまの時期こそこの発言を受け止めて下さることを強く要望いたします。

オランダ・ハーグで 戦後補償問題で懇談

国連要請行動を終えてオランダへ。広々とした草原に乳牛や馬羊の群れ。のどかな風景でした。アムステルダムではアンネ・フランクの家、レジスタンス博物館、美術館などを見学。

ハーグのホテルで対日道義請求財団の会長、幹部と懇談。太平洋戦争でインドネシア(当所オランダ植民地)を占領した日本軍による捕虜虐待、労賃不払い労働、従軍慰安婦問題などがあり、ともに闘って行くことを話し合いました。

ポーランドで平和の行動 九条ビラ・折り鶴を配る

アウシュビッツ強制収容所跡では「戦争はここまで人間を狂気に変えるのか」と息がつまりました。死の壁、焼却炉跡に千羽鶴・折り鶴を捧げました。ビルケナウ収容所の広大な跡地には、死者が花になつたように美しい花々が咲いていました。

クラクフの中央広場、ワルシャワ蜂起の犠牲者碑の広場でも憲法九条のビラや折り鶴を配りました。

各地で8・15終戦記念日行動

交替でマイクをにぎり

福岡

福岡支部では、福岡市中央区天神の三越デパート前で街頭宣伝行動をおこないました。

宣伝行動に参加した人は十人。

参加者全員が交替でマイクをにぎり「憲法九条は日本の宝、世界の宝」「青年に再び銃をとらせないように」「ふたたび戦争と暗黒政治を許すな」と訴え、中央本部発行のビラ五〇〇枚を市民に渡し



ました。受け取った市民は「大変な時代が感じられます。二度と日本が戦争をする国になってはいけませんね」と言っていました。

国連要請から帰国した橋本幸夫県本部事務局長も帰国報告をしました。

腕の弾痕見せ「頑張れ」

青森

国賠同盟青森県本部は十五日、青森市新町で街頭宣伝をし、ビラ配布、署名、ハンドマイクで訴えました。

五味迪子会長はじめ十数人が参加し、自衛隊第九師団がイラクに派兵されるなど憲法破りの動きがつづいており、ふたたび戦争と暗黒政治を許すなと訴え、五十人を超える署名が集まりました。

腕に残る弾痕を見せて「戦争は絶対反対だ。がんばれ」と言って激励する戦争体験者、「いまの政治の動きは危険だ」と話し込む青年もいました。

右翼団体の街宣車がポリウムを上げて軍歌を流して通り過ぎて

はまたくるなど妨害行動をしましたが、中嶋丘子女性委員長は、ハンドマイクで「戦時中あの軍歌に送られて青年が戦地で命を奪われていきました。同じ過ちを繰り返してはなりません」ときつぱり反撃しました。

若ものたちの賛同！

神奈川

夕方四時から六時まで、藤沢駅前において同盟県本部、湘南支部をはじめ共産党市議団、新婦人、有事法制に反対する市民の会など、政党・市民団体、個人の共同による四〇人の街頭宣伝です。チラシは同盟など五団体のチラシをセットにして四〇〇セットを配り、五六名が画板を持って署名を訴え約四〇筆。スピーチは同盟支部長の司会で、十数人が私の8月15日をテーマにこもごもに戦争体験を語り、平和を訴えました。

お盆休みとはいえ、道行く人も多く、とくに若ものたちの署名が目立ちます。「終戦つてどこと戦つたの?」「北朝鮮がいるから軍隊は必要では?」など率直に質問し、納得すると友達みんなで署名してくれます。駅前広場は「再び戦争と

暗黒政治を許すな」の黄色い横断幕はじめ各団体ののぼり、「九条の会」ポスターなど、時ならぬ平和のオンパレードとなりました。

全道九支部で

北海道

北海道本部は、札幌市中心街のパルコ前で、「憲法九条改悪許さず」の大型パネルを掲げ、あいにくの激しい雷雨のなか、「憲法が危ない」「日本をふたたび戦争する国にすることは許されない」と高嶋会長を始めとする各弁士が訴え、札幌支部との協力で、総員二十三名が参加し、統一ビラ配付、署名行動を行いました。

当日、苦小牧、小樽、室蘭、帯広、釧路、北見の各市でも街頭や中心街で各支部の街宣が行われ、統一ビラ裏面には「九条の会」アピールを載せるなどの工夫もし、署名行動にも取り組みました。街宣が出来なかった支部でも、新聞折り込みや、戦争展での署名、ビラ配付、集会への持ち込みなどで、この日九支部の取り組みが展開され、市民の協力、激励を受けました。

顕彰碑

|||||||

新潟県新発田市 反戦・平和に青春を捧げた

香川三兄弟とその墓

新発田市の中心部、歴代藩主の墓のある宝光寺に、今も香華の絶えない一角がある。名町長香川鍊弥の三人の息子たちが、治安維持法による弾圧で犠牲となったことを、心ある市民は深く哀悼し、決して忘れていないのである。

香川鍊弥の次男・信雄は京都帝大在学中に共青に所属し、杜研、反帝同盟で活動中に同志とともに逮捕され、かねてからの肺結核が悪化し帰宅を許されたが、23歳で死去した。脇机には「プロレタリアート万歳!」の文字が残されていたという。一九三〇年、京都選出の労農党代議士山本宣治が刺殺された翌年であった。



弟・敏雄(三男)は「信兄さんは正しい。今の世の中の方が間違ってる」と父に言い切り、同じ道にすすんだ。新潟高校の学生であったが学園民主化闘争で同校を「除名処分となる。その後、「全協」事件、農民運動にかかわり、特高に捕まり留置二十日の後、新

発田連隊に入営させられるが、訓練中の事故がもとで腹膜炎となり、21歳7カ月の若さで死去した。

四男・文雄は新発田中学を卒業し仙台の東北学院に入学していた。兄・敏雄が死の床で「頼む」と言った同じ道を歩むことを決意、共青学生対策部の一員となり活動。34年逮捕、長いきびしい苦難が待っていた。独房70日余、ついに権力によって、その精神を圧殺させられてしまうのであった。戦後、中学校長などをつとめたかたわら香川家の苦難と悲劇を『風雪の庭』三巻にまとめ、その変革の道をいまに伝えたのである。

(新発田支部 上村啓)

時の焦点

戦前は命をいとおしく思うのは『恥』とされた。学校でも社会でも天皇のために死ぬ!とばかり教えられ、国(天皇)のために戦死して靖国神社に奉られることが最高の名誉とされていた。まさに靖国神社は無謀な侵略戦争遂行に不可欠の役割を果たしていた。そして天皇のためには命を惜しまずどんな不合理な命令にも順応する兵士が造られていった。このように人命を軽ろんじる野蛮な軍隊が中国を始めとするアジアの国々を侵略し残虐の限りを尽くしたのである。

先日夏休みで帰国している、北京大学の講師堀江さんから聞いた話であるが、今年正月、小泉が靖国神社参拝を決定した翌日、北京では朝六時のテレビでトップニュースとして扱われ、駅の売店に並んだすべての新聞の一面に紋付袴姿の小泉の写真と抗議文が載っていたという。また四月に福岡地裁が小泉靖国参拝違憲判決が下されたのにどうして小泉はやめないのか? という生徒からの質問が出たとのこと。

八月一四日の朝日新聞に上海・

小泉首相と靖国参拝

華東師範大学客員教授の禹守根さんの談話が掲載された。「七月はじめ、上海の食堂でこんな光景に出くわした。店のテレビで、靖国参拝をする小泉首相の硬い表情が映し出されると突然、客達が口々に小泉首相をののしり始めた。」

サッカー・アジア杯での騒動のゆき過ぎが批判されるのは当然であるが、同時にこれを「反日教育の結果」などと歴史の真実をあべこべに描きだそうとする姿勢に批判の目を向けなければならない。禹教授は「参拝にこだわりの、反日の火に油を注ぐ姿勢は唯我独尊のそしりを免れないだろう。」と述べている。

広島平和式典で空虚な式辞を述べた小泉は「来年も靖国参拝をする」と言い切った。さらに驚いたことに一五日、石原都知事が靖国参拝のあとの発言で「ぜひ天皇に一国民として参拝していただきたい。天皇にしか果たせない国家に対する大きな責任を果たしていただくことになる」とコメントした。こんなことが実施されたらアジアの国々との国際交流に決定的なダメージを招くことになる。

(倉)

抵抗の群像

同盟提唱者 勝目テル



大分県 都留忠久

今年十月三日は治安維持法犠牲者国賠同盟設立の提唱者勝目テルの没後二十年の命日です。一九九四年水道橋グリーンホテルでの「勝目テル生誕百年・没後十年の集い」では勝目テル肖像画が掲げられました。同盟大分県本部の高木龍夫副会長が描いたもので、一同生前の偉業を讃えました。

一九六五年、彼女の「治安維持法犠牲者として政府に謝罪させる運動を起こそう」との提唱によって、三・一五弾圧40周年の六八年に新橋の「平和と労働会館」で創立総会が開かれ、二百名の犠牲者が会員となった小さな、しかし意気軒昂の組織として発足したのでした。

女は魚のしっぽだけ

勝目テルは一九九四年(明27)鹿児島県日置郡市来村に生まれま

した。そのころは薩摩では女性蔑視の風潮がつよく残っていました。男が魚を食べる時は女はシッポだけ、洗濯のタライさえ別などという実態のなかで、テルはそれに対してつよい怒りをもちました。教員養成所修了で小学校教師となり、トイレの中、歩く時間も惜しんで読書に励み、野菊女の筆名で歌を地元新聞にのせ、部落差別問題の小説を連載して有名になりました。大正初年に「貧乏物語」などの書に接し、「女性解放のためには、男性とのたたかいではなくて、社会制度そのものの変革が必要だ」との認識に立つに至りました。

金沢市の社会主義グループの小新聞が送られてきて、社会変革を実践している人たちの叫びに胸打たれ、本人の意を無視した縁談に反発して金沢へ出奔、同志の示野

吉三郎と結婚、逮捕検束の弾圧に抗して活動しました。

一九二七年、夫妻で東京に移り労働者の消費組合活動に加入、幹部となり、農民組合と連帯して産地消費者直結運動・関東消費組合連合の常任中央執行委員となり、また日本最初の無産者託児所を運営。維持費を河崎なつ、羽仁説子、徳田秋声などから募金。一九三二年三月の東京地下鉄争議は労働者の半数は松崎濱子や松岡朝子ら若い女性で、テルは関連連の仲間とともにこの争議を支援しました。同年東京の米よこせ闘争の先頭に立ち、女性参政権要求運動に参加。無産者消費組合連合の機関紙に「どうしたら婦人を組織できるか」や「婦人の組織の重要性和方法」などを発表。検挙されて三カ月間入獄しました。

平塚らいてうらとともに

山川菊栄、堺真柄、平塚らいてう、市川房枝、宮本百合子らと苦労をとともにし、反発したり、激励し合ったりして、いつしか先輩格になり一九四〇年に勝目著の『家庭宝典』を発行したのでした。夫とは子どもが生まれることなく死

別しました。

敗戦直後、杉並で一千人の米よこせデモを組織し隠匿食糧を摘発、四七年民主婦人協議会を結成、会長をつとめ、四八年には丸岡秀子、市川房枝、羽仁説子、山高しげりらと日本生協連合会結成に参加し、また生協診療所活動に従事しました。

五三年「平和ふじん新聞」を責任者勝目テル、実務守谷武子で発行。「女性と子どものしあわせ、戦争に反対し、平和と独立のため女性の力を合わせよう」という新聞でした。

杉並で原水爆禁止署名運動を開始し、五五年に第一回日本母親大会を呼びかけ、盛大な「涙の母親大会」を成功させました。

「『平和ふじん新聞』活動十年」で、テルは平塚らいてうらと「新日本婦人の会」結成をよびかけ、結成後は一九八四年逝去するまで代表委員、「新婦人しんぶん」の編集発行人をつとめました。

その間に、治安維持法犠牲者への日本政府の謝罪を要求し続け、戦争と暗黒時代の再来を阻止する運動を提唱したのでした。一九八四年十月三日に逝去。享年九十歳。

同盟歌壇

碓田のぼる選

千葉県 行木 権平
朝風をまといて歩む畦道に早稲「ふさおとめ」すでに色づく
「天皇も靖国へ」と都知事いうこの妄執のもたらすは何
「評」一首目第二句は「向かいて」であったが、この言葉のイメー
ジは下句となじまないで直した。二首目、都知事の妄執への批判
原作下句「この妄執がもたらすものは」であった。

静岡県 江川 佐一
大君の御為ならば本懐と騙しし人らの責任を問う
特攻隊員十七歳で遺書にそえ送り来しもの写真と爪のみ
「評」天皇のために死ぬを本懐と教え込まれて来た、その教育が
息を吹き返そうとしていることを言外におさえている。後歌原作骨
なくも写真と爪が届きしと特攻隊員十七歳の遺書

埼玉県 寺島 清文
夾竹桃みる度に思い出すのは戦争のこと哀しい花だ
「評」一首は散文的な感じである。しかし、「この戦争のこと」と
いう切れかたと、「哀しい花だ」とのつながり具合は、哀感を生み
出している。

東京都 山崎 元
目をすえて深夜のテレビ熱くみる燃えるアテネは地底の先か
軍の日の丸スポーツの日の丸腹に据えるか二律背反
「評」第一首目の原作第一句は、「横たわり」であった。この表現
は「熱くみる燃える」とは違和感をもつ。第二首目、作者の意図は
理解できるが「腹に据えるか」はもう一工夫が必要となろう。

東京都 若林 義文
武力行使を可能にせんと競い合う与野党これを翼賛と叫ぶ
禁じられし武力行使を犯しながら憲法改悪に狂いたたき
「評」二首とも憲法をふみにじる武力行使と、改憲の動きについて
の批判である。「翼賛」とは、侵略戦争への無批判な協力体制。二
首目、既成事実をつくりながら改憲の道を歩もうとしている状況を
歌う。

俳句

一揆の碑終なき連判カンナ燃ゆ

和歌山県 山本 長生



『日本にも戦争があった・七三一部隊・元少年隊員の告白』

篠塚良雄・高柳美知子共著

新日本出版社 (一、三〇〇円)

「足かせ手かせで固定された男は、カッと目を見開き、この凶行を確かめるかのように首を回しましたが、体の自由はききません：男の首をなでまわしていた細田中尉が、右手のメスをズバリと頸動脈にそって切りさげました。血がジュウツと流れ出しました」、活字を追うのが何とも苦痛となり、目をそらせたくなる描写が続きます。侵略戦争拡大のさなか、十五歳の少年が巧みなさそいのにせられて七三一部隊の少年隊を志願、「悪魔の手先」の道を歩まされた戦慄の告白です。七三二部隊といえ、石井四郎中将らの高官の姿を想起しますが、彼らの悪業は、このような年端も行かぬ少年たちの手を、血で汚されることで組み立てられていたことを思い知らされます。何体もの「マルタ」解剖の補助を強制され、ついには細菌に感染した戦友をも解剖台にのせなければならなかったのです。

ナチスも顔負けといわれる関東軍細菌部隊の所業を、自らもそれ

平和未来を願う戦争展

京都 岡本康

7月31日(土)から8月8日(日)まで、立命館大学平和ミュージアムで、24回目の京都戦争展がひらかれました。同盟京都も、2階204号室に、日露戦争に反対した幸徳秋水の辞世や、治維法適用第一号の京都学連事件の新聞コピー、河上肇博士の着物姿での演説写真、獄死した国領伍一郎・倉岡愛穂ら先駆者のパネル、日本初の普選で京都から革新代表で当選した代議士「山宣」の生涯絵図、「山宣」の孫、曾孫の敬愛レポート、発禁の「赤旗」、特高の引継書パネル、獄死した同志社大学留学生ユン・トンジュの写真などを展示しました。「治安維持法と現代」「大いなる幻影」「劇画山宣」「もう一つの抑留」などの書籍も紹介販売しました。

全体会場では、日露戦争から、15年戦争までを告発する写真と原爆模型・イラクで米軍が使ったクラスタ爆弾模型・イラク民衆加害を告発する写真展など豊富な内容展示、二階会議室での平和にちなむ講演会、映画上映など多角的

多彩な取組みに、参観者も尻上がりにふえ各界から一万人、中・高校生も多数参加しました。

同盟では、交代で当番を勤め1166名の参観者に説明や署名などお願いしました。集まった国家賠償要求署名は484筆でした。

平和への決意あふれる

第50回日本母親大会

申合わせに「戦後補償」

第50回日本母親大会は、8月21日分科会、22日全体会をのべ二万六千人が参加して、それぞれ埼玉県草加市の独協大学、東京有明コロシアムで開かれました。

分科会で同盟は、シンポジウム「いま問われる戦争責任」を重視して討論に参加し、申し合わせに「国家権力の弾圧に依る犠牲者への謝罪と補償」の一言を入れることができました。

全体会では、母親大会の歴史、憲法、平和を守る運動を中心に、各地の要求とたたかいの経験が報告されました。特に東京の石原都政による教育現場への「日の丸・君が代」の強制への批判、沖縄普天間基地の辺野古沖への代替基地

建設への怒りの座りこみ闘争への激励と共感の万場を圧しました。

フランスから参加した平和活動家美帆シボさんの連帯の発言、特に当日のメイン講演でアグネス・チャンさんは私は日本が大好き、それは平和憲法があるから」「世界の人は戦争をしない日本を尊敬している。その日本はいま曲り角。今年、来年、再来年が一番大事な年になるかもしれない。ぜひ、この宝を守って。それが世界の子どもたちの命を守ることになる」と結び、一万人以上の参加者の心をうちました。

今年は第1回の一九五四年から五〇年目。時代の変遷と現在の日本の危機を思い知らされましたが、しかしそのねじ曲げようとする勢力に対する女たちの、憲法を守るための行動、情熱、決意がいつそう示された大会でした。

なお会場で国賠署名130筆が集まりました。

〈寄贈図書〉

生誕100年記念

市村三男三遺作展

ときを翔て・Ⅱ

同盟高知県女性部

母恋詩人・医師
父・金井廣 備忘録

地方ブロック会議日程

東北(宮城)	九月二・三日
中国(岡山)	九月十三・四日
東海(静岡)	九月十四・五日
関東(東京)	九月十五・六日
近畿(大阪)	九月十六・七日
四国(徳島)	九月十八・九日
九州(福岡)	九月二三・四日
北陸信越(富山)	九月二八・九日
北海道	十月七・八日

事務局日誌

7月30日	「不屈」編集会議
8月4日	国連要請団、外国NGOと交流学習会(ジュネーブ)
8月6日	国連要請団、ジャパンデー(Ⅱ)
8月7日	同盟神奈川県本部大会に参加(斉藤)
8月17日	「不屈」編集会議
8月21・22日	母親大会に参加(中村)
8月27日	「不屈」編集会議
8月28・29日	多喜一シンポに参加(斉藤)